

【別紙様式 I】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立小鮎小 学校

厚木市教育委員会の基本目標 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 江上 純子

学校教育目標		学校経営の方針		
豊かな心と、たくましく生きる力をもった児童が育つ学校		こ:根気強く自分で考える子 あ:明るく元気な子 ゆ:豊かな心で思いやりのある子 「自分で考え 共に学び みんなが楽しい」		
今年度の重点目標				
【A:まなびグループ】 まなび合う力の育成 … 課題解決能力の育成 他者理解・自己表現力の向上 個別最適な学習環境の整備 【B:こころグループ】 互いに認め合う心 思いやりの心を育む … 道徳人権教育の充実 支える児童指導 支援体制の充実 【C:からだグループ】 自他の命を大切にする … 健康教育・食育の充実 たくましい体づくり きれいな学校づくり 【D:チーム小鮎】 児童主体の特別活動 … 安全教育の推進 児童主体の学級活動 児童主体の特別活動				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
【A:まなびグループ】 まなび合う力の育成	1・2・3	課題解決能力の育成 他者理解・自己表現力の向上 個別最適な学習環境の整備	◇めあてと振り返りを授業で提示することに努め、児童が主体的に学ぼうとする意欲の向上を図った。 ◆児童の読解力を含む「読み・書き・計算」等の基礎学力の向上においては課題が残る。 ◇学習スタンダードが明確化されたことで、教員の取り組むべき内容の認識が向上し、活用に向かうことができた。 ◇異学年交流を含む協働的な学びの場が設定される機会が増え、コミュニケーション能力の育成につながった。 ◇GIGAスクール端末を使うことで、学年ごと児童の実態に応じて、スキルでの学習を深めたり、前学年のドリル学習に取り組んだり、教科書で補充問題に取り組んだりするなど様々な方法を提示して進めることができた。 ◆算数での少人数教室、各教科の振り返りの表現方法、グループ活動での役割分担など、児童自らが選択、決定、実行する機会をつくることはできたが、学力アップにおける教員の達成度は上がっていない。	・授業のユニバーサルデザイン化を推進し、具体的な授業改善を図ることで、基礎学力の定着に努め、子どもたちの学力向上を目指す。 ・家庭での自主学習を含め、児童自ら学習に取り組めるようにするための土台作りを進めるとともに、個別最適な学習の具体的な指導方法、効果的な取組を学んでいく必要がある。 ・日常的にGIGAスクール端末を使うことで、個別最適な学び及び協働的な学習を推進するとともに、授業における情報活用能力の育成に活用していく。
【B:こころグループ】 互いに認め合う心 思いやりの心を育む	1・2・3	道徳人権教育の充実 支える児童指導 支援体制の充実	◇全校道徳(朝会と人権週間)、人権週間の取組を計画的に進めることができた。また、ピンクシャツデーの意識付けを継続して行った。 ◆スクリーニングの計画的実施や実施を進めている「こころの健康観察」を定着させていくことが課題として残っている。 ◇支援につながる困り感がある児童の受け入れにおいて、支援級が柔軟に対応することで、組織的な体制づくりを進めることができた。 ◇週一回のコーディネーター会議や打合せ後の児童指導における情報共有を計画的に実施し、時間や集まる人材を活用して、児童の個々の実態把握や必要な情報交換を効率的に行うことができた。また、記録簿の定着が進み、打ち合わせ時間を短縮することができ、働き方改革の視点からもプラスになった。	・リソースルームの紹介を4月に行うなど、学びの多様性の指導と関連付けて行っていき、児童が安心して学んだり、SOSの声を出せる環境づくりを進めていく。また、児童の声を聴く力を高め、「いじめ0」「暴力0」を常に意識した学校づくりに努める。 ・時間や場所の確保の点から、児童との教育相談のやり方を見直していく。また、学校だよりの月予定に入れて、保護者にも周知していく。 ・ケース会のスピーディーさが求められており、会の開き方、手順を全職員に周知していく。日を固定することやコーディネーター会議とミックスしていくなど、よりよい体制づくりを目指し、工夫して取り組んでいく。

【C:からだグループ】 自他の命を大切にす る	1・2・3	健康教育・食育の充実 たくましい体づくり きれいな学校づくり	◇総合的な学習の時間において、SDGsの取組を行う一環として、給食の残食を減らす取組を行った。また、給食時間を活用して食育の放送を行ったことで、一定の効果が見られた。 ◇朝体育を実施し、体力テストやラジオ体操の動きを事前に確認できた。また、応援し隊の協力を得て行うことができ、協働的な活動の足掛かりになった。 ◇地域の方とともに、学校の畑を活用して野菜の栽培やさつまいもを育て収穫したことにより、よりよい交流をすることができた。 ◇たてわり清掃では、振り返りカードを変更したことにより、反省会がわかりやすくなった。しっかりと振り返っているグループが多くなった。 ◆初めは掃除ボランティアの参加率が低かったため、募集の方法や回数、期間を工夫し、参加を呼びかけた。	・健康的な生活を送ることができるよう、継続的に残食に対する意識を高くもてる取組を行うとともに、う歯罹患率が高いことから、歯科指導を強化していく。 ・たくましい体づくりの一環として、朝体育を継続し、より効果が得られるように実施計画を立て、時期を選んで集中して行っていく。 ・限られた時間で効率よく掃除ができるように、掃除方法を確認する期間を設ける。また、振り返りの充実を図っていく。
【D:チーム小鮎】 児童主体の特別活動	1・2・3	安全教育の推進 児童主体の学級活動 児童主体の特別活動	◇避難訓練を定期的に行うとともに、教員向けの不審者訓練を行うなど、教職員自身も含め、児童の身を守る術について、学ぶことができた。 ◆交通安全教室をはじめ、登下校指導などでも、交通事故防止に取り組んできたが、自転車事故が多く、取組の内容や指導の徹底に課題が残った。 ◇フレンド集会では、異年齢での活動を通じて、ペア学年で実施できたのが児童の主体性を伸ばし、意欲的な活動につながった。また、スマイルウィーク(あいさつ運動)の取組が進み、保護者からも児童が元気にあいさつできるようになってきているという評価を得ることができた。 ◆学級活動においては、授業の中で児童が主体的となる取組に課題が残っている。 ◇朝学習(あゆっこタイム)の時間を活用したことにより、学活での主体的な児童の姿が見られた。高学年では、会社活動の時間が確保され、縦割りの活動などでリーダーシップを発揮することができた。 ◆子どもが各委員会の活動内容を十分に知らないまま参加していることがあった。主体的な活動のために改善をしていく。	・自転車の乗り方や廊下歩行など、年間を通じて、継続的に指導を行っていく。また指導を通じて、児童自身が安全意識を高め、怪我や事故を未然に防ぐ判断力を育成していく。動画視聴やケーススタディを通じて、児童自身に安全について考えさせる機会を設定していきたい。 ・来年度も、フレンド集会やスマイルウィークをはじめ、異学年交流を年間を通じて取り入れていく。今年度の経験を活かしつつ、みんながより安心して、より楽しく参加できる方法を児童自身に考えさせていく。 ・学級活動においては、年間計画を見直し、学級会を中心に児童が主体的に活動に取り組めるように改善し、実施していく。 ・委員会の再編成を行い、それぞれの委員会の役割を整理していく。学校教育目標を意識して「自分たちには、どんなことができるか」という視点で、児童が見通しをもって活動を創り出していけるようにしていく。また、児童朝会や昼の放送など、全校児童に発信する場も積極的に設定していきたい。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

今年度から始めた「朝体育」の時間の中で、ピンクベストを着た応援隊が、児童と一緒に活動するなど、子どもたちと関わる機会が増えてきた。総合的な学習の時間では、地域の人たちや地域にあるお店とのかかわりを通じて、学習の幅を広めることが進んできている。今後もピンクベストを着用した地域の人たちが、たくさんの子どもと話し、褒めたり叱ったり、受け入れたりすることで、子どもたちの自己肯定感を高めていきたい。また、地域として、子どもたちに顔を覚えてもらう、安心感をもってもらうという中で、「見守ってくれている人」「相談できる人」「安心できる人」を増やしていきたい。

学校と地域が共に創り上げる学習活動や取組を展開するにあたっては、授業者が見通しをもち、計画的に実施してほしい。読み聞かせのボランティア活動が計画されていても、実際に来た時には、学校全体がいそがしそうで気を使ってしまうような場面もある。トイレ清掃の具体的な取組内容や支援についても、さらに共通理解を図って進めていく必要がある。ボランティア登録されていても連絡がないなど、PTAも含めた地域の応援隊の呼びかけや周知の仕方、窓口などの環境を整備することで、協働活動がさらに進めていくことができれば、子どもたちの学びもより深いものにつながると思われる。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育目標の実現のため、めざす児童像を教職員、児童、保護者、地域と共通理解をして取り組んできた。

インクルーシブ教育の推進のため、一人一人の豊かな心が育ち、自分の良さに気づいて自己肯定感を高め、たくましく生きる力が育つ教育環境の土台作りに努めてきた。また、いじめ認知について、週1回の打ち合わせ後の全校職員での情報共有や共通理解、1学期の児童指導全体会での研修、毎月「0」のつく日にピンクベストを着用して「いじめ0」を啓発するピンクシャツデーの実施、朝会や放送を通しての継続的な声かけなど、いじめを防止するための対策を講じてきた。

全教職員が全児童を支援する体制として、昨年度から取り組んでいるサポートタイム(全教職員で全児童を指導・支援する体制)の構築及び活用に努めた。

地域学校協働活動を推し進めるために、「総合的な学習の時間」についての研修や拡大大学校運営協議会、昨年度全教職員で作成した単元計画を基にして、各学年が地域と共に行う授業を実践してきた。

教材研究、研修の時間を確保するために、学年担任制や教育課程の工夫、勤務時間の明確化、ペーパーレス化、グループ活動の活性化、総括のリーダーシップ、児童指導・支援の記録の一元化に加え、教育環境の整備など働き方改革を進めてきた。

次年度も今年度同様「豊かな心と、たくましく生きる力をもった児童が育つ学校」を目指し、子どもが自分で考え、主体的に選択したり解決したりする学習ができるように授業改善に取り組む。さらに、子どもが、友達や教師、地域の方々など、様々な人と協働的に学ぶ力が育つよう、「生活科」や「総合的な学習の時間」、「特別活動」の時間について工夫をしていく。

心の育成においては、自他の命や人権を大切に、多様性を尊重し、互いに認め合うことのできる思いやりの心が育つ温かい学校づくりを目指すとともに、全教職員の協働体制と学校、保護者、地域、外部専門機関との連携により子どもたちを育み、チームとして子どもたちの自己肯定感を向上させるために尽力する。また、SOSが出せる安心できる環境づくりと子どもの育成に努める。

健康や環境面においては、一人一人が自分の良さを伸ばし、課題に対して主体的で根気強く学ぶことができる力の育成を目指し、学習環境や教育課程をつくっていく。また、自分の健康や体力、教育環境の課題について、自ら考え行動し解決できる力の育成に努める。子ども自らが安全意識を高められることも重視していきたい。

さらに、「誰一人取り残すことのない」支援体制、互いに認め合い、思いやりのある行動ができる子どもが育つ人間関係づくりの取組、授業づくりでは、ユニバーサルデザインを取り入れた個別最適な学びと協働的な学びを推進していく。

地域との連携を深めていくことで、社会に開かれた教育課程の実現を目指し、「地域学校協働活動」の推進に努めていく。放課後の時間に、子どもたちが楽しい時間を過ごすことができるように、地域で子どもを育て見守る場をつくっていききたい。